

令和7年度学校保健統計調査の結果（確定値：兵庫県分・主な内容）

○ページ数は、学校保健統計調査報告書「発育と健康」【確定】のページ数を指す。

1 調査の概要【P 1】

- ・昭和23年度から毎年実施。
- ・学校等において4～6月に実施する健康診断結果等に基づき、回答を集計。
- ・本県の調査対象校は203校（無作為抽出）。
- ・発育状態（身長、体重）は一部の児童・生徒、健康状態（疾病・異常等の有無）は全員が対象。

2 令和7年度の調査期間

令和7年4月1日～令和7年6月30日

3 令和2年度から令和5年度までの集計結果との比較について

令和2年度から令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日に実施される健康診断について当該年度末までに実施することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間を年度末まで延長した。

このため、令和2年度から令和5年度までの数値については、いずれの項目も調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、他の年度の数値と比較することはできない。

4 令和7年度調査結果の主な内容

以下のとおり。

（1）発育状態【P 3～5】

身長・体重のいずれも、全国値と比較して大きな差は見られない。

また、昭和50年度以降の各学校種別の最終学年における身長及び体重の平均値は、概ね上昇傾向にあるものの大きな差はなく、ほぼ横ばいとなっている。

(2) 健康状態

ア むし歯（う歯）【P 8～P 9】

「むし歯（う歯）」のある者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）は、幼稚園 21.8%（令和 6 年度 18.5%）、小学校 31.2%（同 32.4%）、中学校 26.1%（同 24.1%）、高等学校 34.3%（同 35.3%）と、高等学校が最も高くなっている。

むし歯の者の割合の推移をみると、平成 5 年度には、70% 台～90% 台の割合でむし歯があつたが、その後は、どの学校種別においても減少傾向にある。

12 歳の永久歯の 1 人当たりの平均むし歯数（喪失歯及び処置歯数を含む。）は 0.4 本である。平成 6 年度は 3.6 本であったが、その後は、減少傾向にある。

イ 裸眼視力【P 9】

「裸眼視力 1.0 未満」の者の割合は、6 歳 19.2%、7 歳 26.2%、8 歳 25.1% であり、年齢が上がるにつれて概ね増加傾向にある。

ウ アトピー性皮膚炎【P 10】

「アトピー性皮膚炎」の者の割合は、幼稚園 2.1%、小学校 2.7%、中学校 2.0%、高等学校 1.9% となっている。

エ ぜん息【P 10】

「ぜん息」の者の割合は、幼稚園 2.1%、小学校 2.4%、中学校 1.8%、高等学校 1.4% となっている。

(3) 肥満傾向児の出現率【P 11、P 22】

男女あわせた全国の出現率と比較すると、すべての年齢で全国値を下回っている。全国値との差が最も大きいのは 11 歳で、全国と比較して 3.01 ポイント下回っている。

【問い合わせ先】

企画部統計課 生活統計班（教育農林統計担当）

TEL : 078-362-4130 e-mail : toukei ka@pref. hyogo. lg. jp